Title	ダイナミック・ケイパビリティ・ベースの戦略経営論研究						
Sub Title	Studies on dynamic capabilities based strategic management						
Author	菊澤, 研宗(Kikuzawa, Kenshu)						
Publisher	慶應義塾大学						
Publication year	2019						
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)						
JaLC DOI							
Abstract	2018年度の研究テーマは「ダイナミック・ケイパビリティ・ベースの戦略経営論の研究」であった。						
	今日、多くの研究者がダイナミック・ケイパビリティ論に注目しているが、その内容は難解だと いわれている。この難解なダイナミック・ケイパビリティ論の内容を明らかにするためには、三 つのルーツにさかのぼる必要がある。すなわち、(1)企業の理論、(2)戦略経営論、そして (3)多国籍企業論である。						
	今年は、それぞれのルーツに従って、ダイナミック・ケイパビリティの研究を行った。 そして、その研究成果を、私は、著書、雑誌、学会報告、講演などで公表した。それらの研究成 果は、以下のように要約できる。						
	(1) まず、戦略経営論分野は、ポーターの競争戦略から始まった。その限界を明らかにして登 場してきたのが、資源ベース理論である。そして、この資源ベース理論を批判することによって 登場してきたのが、ダイナミック・ケイパビリティ論である。これらの流れを明らかにした。						
	(2) 次に、企業の理論分野では、垂直的統合問題について、これまで取引コスト理論による説 明が主流であった。しかし、その理論では説明できない企業行動がある。そして、それを説明す るのが、ダイナミック・ケイパビリティ論であることを明らかにした。						
	(3) 最後に、多国籍企業論分野では、これまでなぜ企業は多国籍化するのかをめぐって、取引 コスト理論による説明が中心であった。しかし、取引コスト理論では、企業が多国籍化した後の 持続的競争優位を維持するための国際マネジメントについては説明できない。これについて説明 しようとしているのが、ダイナミック・ケイパビリティ論であることを明らかにした。						
	引き続き、ダイナミック・ケイパビリティ論の研究を進める予定である。 2018 Fiscal Year, my research theme was "Studies on Dynamic Capabilities based Strategic Management".						
	Today, many researchers are paying attention to dynamic capabilities based view, but it is said to be difficult to understand the content and the meaning. In order to clarify them, we need to go back to the following three roots. That is, (1) theory of the firm, (2) strategic management theory, and (3) multinational firm theory.						
	This year, I conducted studies on dynamic capabilities according to their respective roots. And I published the research results in books, magazines, conference reports, lectures, etc. These research results can be summarized as follows.						
	(1) First, the field of strategic management theory began with Porter's competitive strategy. Clarifying its limitations, resource-based view appeared. Then, by criticizing the view, dynamic capabilities based view has emerged. I made these historical flows clear.						
	(2) Next, in the field of theory of the firm, transaction cost economics has been the mainstream of vertical integration problems. However, there are firm behaviors that cannot be explained by the theory. And I made it clear that these vertical integrations can be explained by the dynamic capabilities based view.						
	(3) Finally, in the field of multinational firm theory, the explanation by transaction cost economics was mainly about why a firm became multinational. However, the theory cannot explain international management to maintain a sustainable competitive advantage after a firm has						

	become multinational. I explained that dynamic capabilities based view tried to explain the problem. I will continue studies on dynamic capabilities based strategic management.	
Notes		
Genre	Research Paper	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180144	

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

2010	十戊于	→ 尹 派 央 頁 立			听先成朱美顏報告書		_	
研究代表者	所属	商学部 菊澤 研宗	職	洺	教授	── 補助額	300 (A)	ŦΡ
			氏名	(英語)	Kenshu Kikuzawa	100-93148		
			研究課題	(日本語	吾)			
ダイナミック・ケ	イパビリティ・	ベースの戦略経営論研究						
			研究課題	〔(英訳)			
Studies on Dyr	amic Capabilit	ies based Strategic Mar	nagement					
			1. 研究成界	果実績の	概要			
2018 年度の研	究テーマは「ダ	・ イナミック・ケイパビリテ						
	の内容を明らた	いにするためには、三つ)内容は難解だといわれてい 必要がある。すなわち、(1)1			
		従って、ダイナミック・ケ は、著書、雑誌、学会報台			テった。 ー。それらの研究成果は、以T	下のように要約で	できる。	
					界を明らかにして登場してき ダイナミック・ケイパビリティ			
					コスト理論による説明が主流 ・ケイパビリティ論であること			倫て
しかし、取引コ	スト理論では、		の持続的競争	優位を終	かをめぐって、取引コスト理 推持するための国際マネジメ らことを明らかにした。			
리き続き ダイ	ナミック・ケイバ	パビリティ論の研究を進め	りる予定である					
			. 研究成果実績					
2018 Fiscal Ye	ar, my researc				based Strategic Managemer	nt".		
content and th	e meaning. In		e need to go b		sed view, but it is said to he following three roots. Tha			
					respective roots. And I pub can be summarized as follo		arch result	s i
					petitive strategy. Clarifying v has emerged. I made these			se
However, there	e are firm beha				as been the mainstream of And I made it clear that the			
-	ational. Howev	er, the theory cannot e	xplain internati	onal ma	ransaction cost economics nagement to maintain a sust pased view tried to explain th	ainable compet	-	
after a firm has		amic capabilities based	strategic mana	gement.				
after a firm has		•	strategic mana 3.本研究課題	-	る発表			
after a firm has I will continue s 死表者	studies on dyna 皆氏名	発表課題	3. 本研究課題 名	- 夏に関す	発表学術誌名	学術誌	発行年月 日・講演日	· E ,
after a firm has [will continue s 発表す (著者・	studies on dyn	発表課題 (著書名・濱 ダイナミック・ケイパビ	3. 本研究課題 名 演題)	- 夏に関す	発表学術誌名 著発行所・講演学会)	学術誌 (著書発行年) 2018 年 10 月	月・講演年	月
after a firm has I will continue s 死表者	studies on dyna 皆氏名	発表課題 (著書名・)	3.本研究課題 名 資題) 「リティの戦略	- 夏に関す (律 中央経	発表学術誌名 著発行所・講演学会)	(著書発行年)	月・講演年 1日	:月]

	リーダーの不条理とその回避一経 済合理主義 VS 人間主義一	産業経理協会(講演)	2018年6月13日
菊澤研宗	反株主主権論ーシュムペーター、ド ラッカー、そしてティースー	経営哲学学会全国大会(統一論 題)	2018年8月30日
菊澤研宗	日本軍に学ぶ組織の不条理とその 回避ーリーダーの条件ー	埼玉ロータリークラブ(講演)	2018年10月15日
菊澤研宗	日本企業が陥るパラダイムの不条 理一取引コスト、ダイナミック・ケイ パビリティ、そして価値判断一	「経営センサー」東レ経営研究所	2018 年 12 月号
菊澤研宗	ビジネススクール流知的武装講 座 なぜ富士フイルムはヘルスケ ア事業に進出できたのか	プレジデント	2018 年 12 月 3 日号